

環境報告書 2024 年度

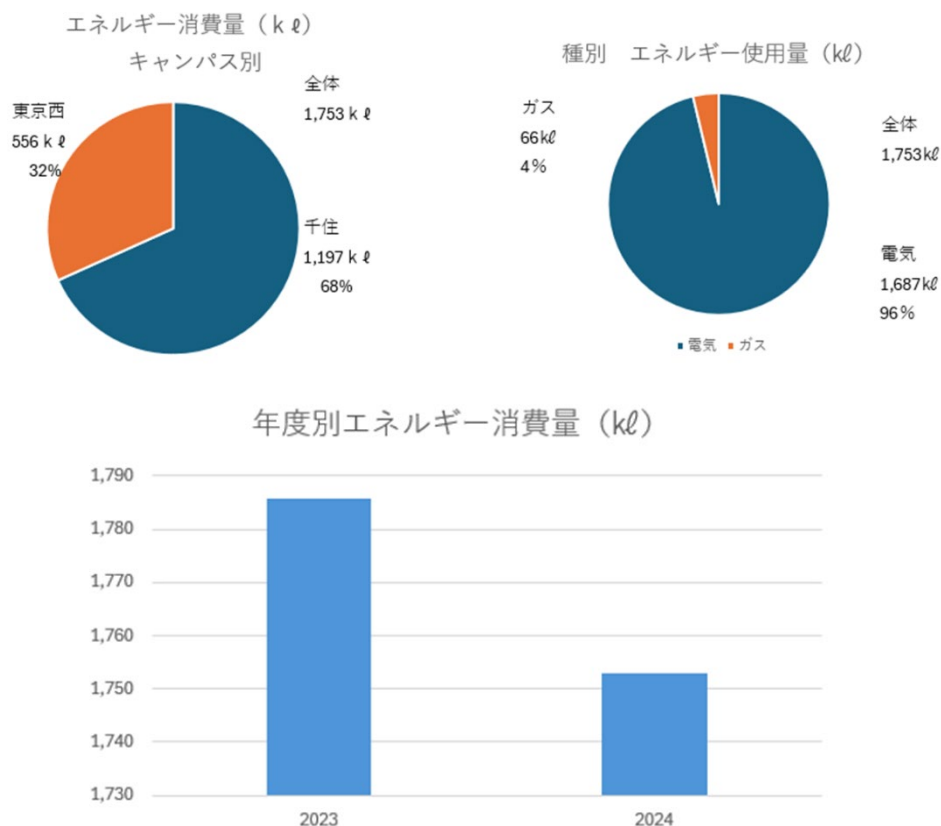
◆環境方針

本学は、「生命・環境」「医療」「教育」の三つをキーワードとして先端科学技術の教育・研究を推進し、21世紀の世界の持続的発展に貢献することを使命としている。環境問題が本学の教育・研究の課題の重要な一つであることから、環境への負荷の少ない、自然と調和したキャンパスの実現に努力すべきことは本学としての当然の責務であると考えます。

このため、本学は、全学的に環境マネジメントシステム（EMS）を構築し、全学を挙げた継続的努力によりエコ・キャンパスの実現を期するとともに、以下の活動を通じて、地球環境の保全・改善に貢献することを目指す。

1. 教育活動、啓発活動を通じて地球環境の保全・改善に貢献するとともに、本学の教職員、学生、関係のある業者その他キャンパス内の全ての者に「環境を守る」という目的意識を持つよう求める。
2. 教育・研究等の諸活動において、環境に関連する法令、学内規則等を順守する。
3. 省資源・省エネルギー、化学物質の安全管理に取組み環境への負荷を低減するよう努める。
4. 環境目的及び目標を設けてその実現を図り、定期的に見直し環境マネジメントシステムの継続的改善に努める。

◆2024 年度エネルギー消費量 (INPUT)

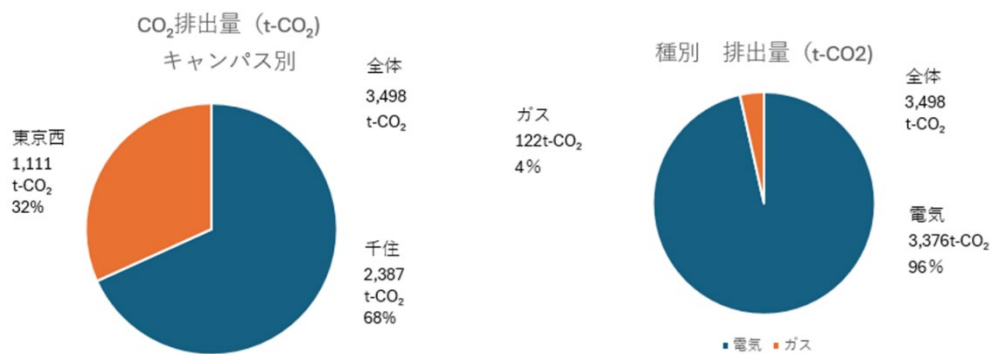


2024 年度は 2023 年度同様に通常のキャンパス運営体制となった。
2024 年度エネルギー消費量は両キャンパス合わせ 1,753kℓ に収まり、2023 年度 1,786kℓ から消費量の削減に成功した。これは千住キャンパスにおいて本館の空調機をガスから電気に切り替えたことで空調機自体の省エネ能力が上がったことが大きな要因となっており次年度以降も空調機更新は発生するが影響規模は小さくなく天候要因以外ではほぼ横ばいとなる見込み。

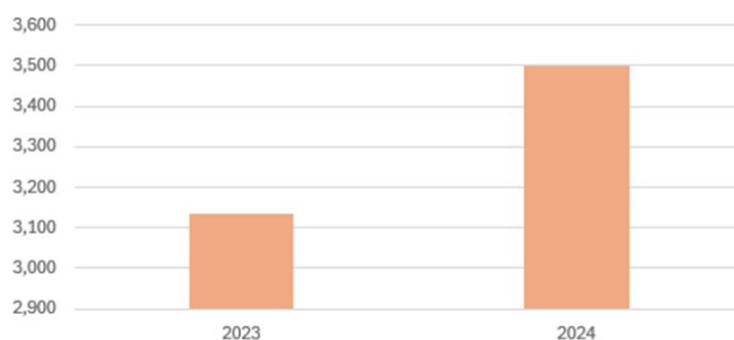
エネルギーの種類別にみると、電気が全体の 96%、残りの 4%をガスが占めており、千住本館の空調機の更新により大幅なガスの削減をおこなっている。

キャンパス別に消費量をみると、千住キャンパスが全体の 68%、東京西キャンパスが 32%という内訳となっており、例年ほぼ同じ比率となっている。

◆2024 年度排出量 (OUTPUT)



年度別 CO₂排出量 (t-CO₂)



2024 年度の CO₂ 排出量は 3,498 t-CO₂ となり 2023 年度の CO₂ 排出量は、3,136 t-CO₂ から大幅に増加した。

エネルギー消費量がガスから電気に切り替えたことで削減されたのに対して、排出量の算出根拠となる各電力会社の CO₂ 排出係数は 2023 年の発電時の排出実績を基に計算されており、電力の発電源がロシア/ウクライナ情勢を受けて天然ガスの供給が不安定だったことで火力発電中心となり化石燃料の使用が増え係数が大幅に悪化し受動的な要因で悪化した。天然ガスの安定供給が再開しており電力会社の係数は次年度以降改善見込みであり排出量も係数の改善と同じ変動の見込みである。

排出量の種類別にみると、電気が全体の 93%、残りの 7% をガスが占めている。また、キャンパス別にみると、エネルギー使用量同様に千住キャンパスが全体の 70%、ついで東京西キャンパスが 30% という内訳となっている。

◆再生可能エネルギー発電量

本学では、再生可能エネルギーの利用目的で、千住キャンパス7号館の屋上に太陽光パネルを設置している。2022年度は約4.7万kw、2023年度は6.8万kw、2024年度は6.7万kwの発電が行われた。機器類の劣化は進んでいるものの設備員によるこまめな確認作業により故障・エラー等による長期に亘る発電停止が発生せず前年度とほぼ同量の発電量となった。

◆環境教育

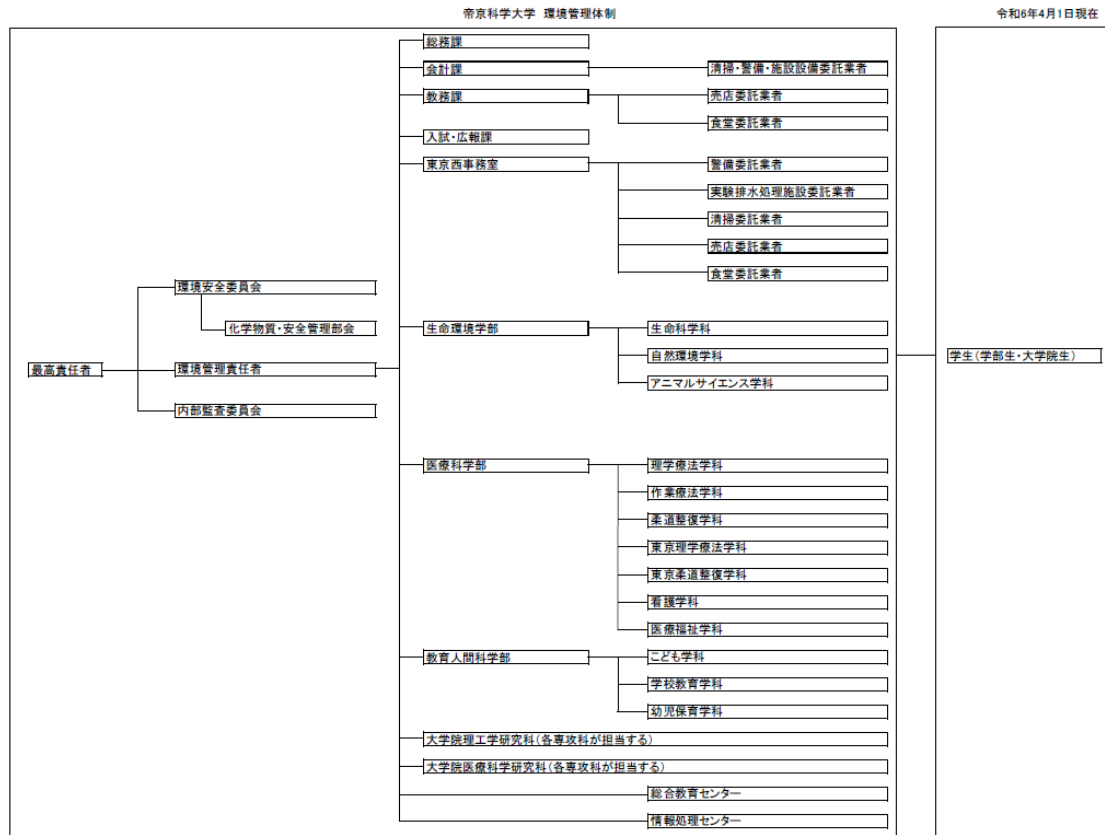
1年次については、新入生オリエンテーションにおいて初めての環境教育として、本学のEMS活動の経緯、EMS活動の内容、EMS活動の重要性、学生に望むことなどについて実施し、2年次以降については、各学科のオリエンテーションにおいて、本学の環境方針、目的・目標、EMS活動の取組みなどについて実施をしている。

【環境アクション5カ条】

1. 不要な照明やOA機器の電源を切ろう
2. 過度な冷暖房を控えよう
3. 節水を心がけよう
4. ゴミの分別廃棄を徹底しよう
5. 駐車時のアイドリングストップを心がけよう



◆内部監査結果の報告



本学では、環境に関連する法令順守状況、化学物質・高圧ガスの保管状況、環境教育及び省資源・省エネルギーの推進状況に関する報告書の提出を各部門に義務付けて、第三者の視点から評価を行う内部監査委員会を設けて評価を行っている。

1. 内部監査実施状況

2024年度の内部監査が2月～3月に実施され、各部署が本学のマニュアルに沿って活動したことを確認した。

2. 環境に関する法令順守状況

必要とされるすべての部門で適用される法令の洗い出しが行われ、順守されていたことを確認した。

3. 化学物質・高圧ガスの保管状況

化学物質保管調査評価表及び高圧ガス保管調査評価表が、必要とされるすべての部門から提出された。特定の学科で未引継の試薬が発見され、再提出とともに、管理体制の見直しを行った。

4. 省資源・省エネルギーの状況

(1) エネルギー消費量について

千住キャンパスではコロナによる活動制限が解除されたことで学生活動が通常に戻ったことと異常気象による冷・暖房需要が強まり前年よりも消費量が増えた。しかしながらコロナ禍以前の2019年に対しては7.3%の使用量の削減となり通常体制においては削減が進められている。東京西キャンパスについては目標を達成できていることを確認した。

(2) CO₂排出量について

千住キャンパス、東京西キャンパスともに、主たる消費エネルギーである電気のCO₂排出係数が悪化したことで受動的に排出量が悪化した。

5. 環境教育訓練の実施状況

関係するすべての部署で一般教育が実施されていることを確認した。

◆次年度の目標

2025年度の目標として、エネルギーの使用の合理化等に関する法律に基づき、本学においてのエネルギー消費量及びCO₂排出量を前年度の目標値から1%削減をした値を目標とする。前年度の目標値から1%削減をした値をエネルギー消費量1,736kℓ、CO₂排出量を3,463t-CO₂と定めた。引き続きEMS、環境教育の実施により、環境を守る意識を高め、目標達成及び環境保全・改善に努める。